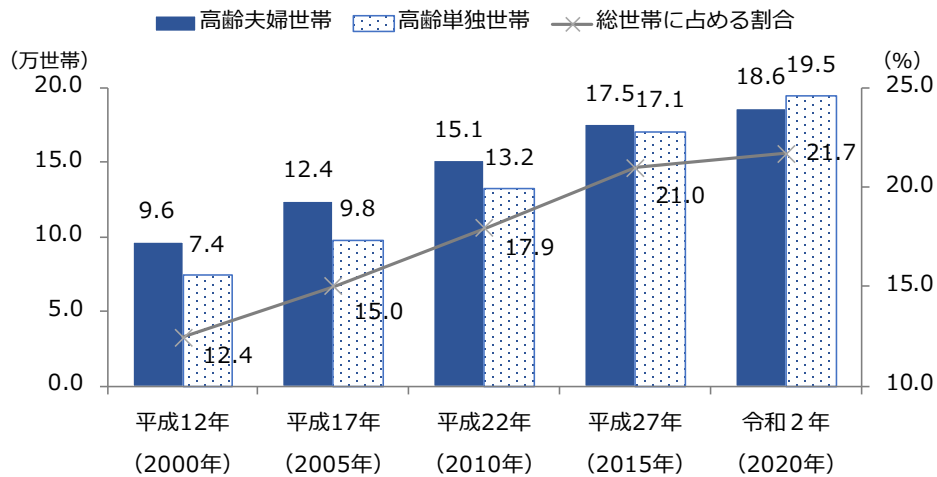


(3) 高齢夫婦世帯と高齢単独世帯

高齢者数の増加とあいまって「高齢夫婦世帯」及び「高齢単独世帯」も増加しています。

平成12年と比較して、令和2年では、高齢夫婦世帯は約1.9倍、高齢単独世帯は約2.6倍となっており、総世帯に占める高齢夫婦世帯と高齢単独世帯は、平成12年には12.4%であったのに対して、令和2年には21.7%となっています。



【出典】国勢調査（総務省）

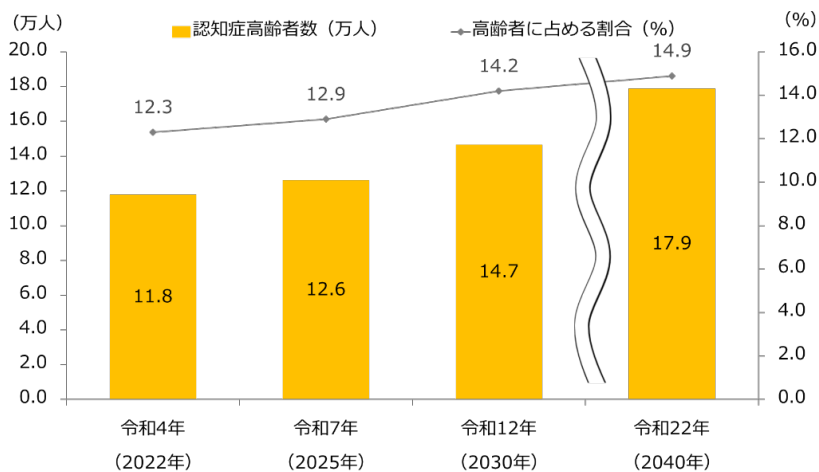
※国勢調査の「高齢夫婦世帯」とは、夫65歳以上、妻60歳以上の夫婦1組のみの一般世帯のこと。

(4) 認知症高齢者

令和6年5月8日 内閣官房 認知症施策推進関係者会議 資料を元に更新

横浜市の認知症高齢者数は、令和4年は約11.8万人で、65歳以上の高齢者に占める割合は12.3%でした。

令和4年からの18年間で約1.5倍になることが見込まれており、令和22年には約17.9万人となる見込みです。高齢者に占める割合は14.9%まで増加し、高齢者の6.7人に1人が認知症高齢者となることが予想されています。（なお、軽度認知障害（MCI）も含めると令和22年には約36.7万人、高齢者に占める割合は30.5%（高齢者の3人に1人程度）になると予想されています。）



【出典】「認知症及び軽度認知障害の有病率調査並びに将来推計に関する研究」（令和5年度老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業分）九州大学 二宮教授）を使用した推計

※令和2年度国勢調査を基準とした将来人口推計（横浜市）を基に算出。